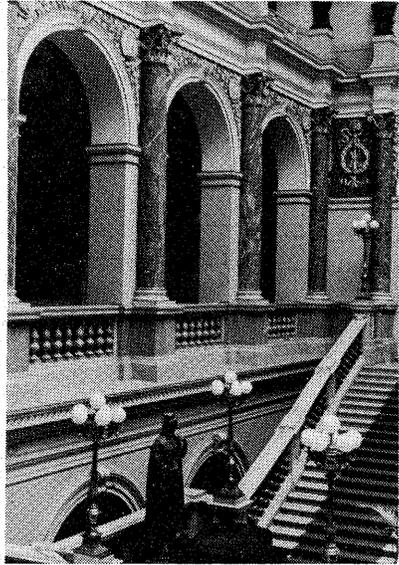


## ブラハ国立博物館

(Narodni Museum)

スメタナの交響詩「モルダウ」で有名な、あのブルタバ(モルダウ)川が流れ、今なお中世以来のたたずまいを残す町ブラハでは、ぜひ国立美術館に行きたいと願っていたのだが、滞在したその日はちょうど月曜の休館日に当たり、やむを得ず国立博物館へと向かったのだった。地下鉄「博物館前」で降りるとすぐ目前に、ブラハの中心街パーツラフ通りを見下ろす形で坂の上に建っている。

国立博物館は1818年、国民の浄財を集めて建てられたネオ・ルネッサンス様式の建築で、チェコの建築家ヨーゼフ・ジーテックの設計という。重い扉を押して一步足を踏み入れると、そこには大ボヘミア王国を築いたブシュミスル王家の創始者リブシュ等の彫像が並び、また中央の階段にはチェコ史を飾った大人物の像が飾られており、いかにも伝統のある国の博物館という雰囲気を感じられる。館内は自然科学、先史、古銭、歴史・考古、鉱物、生物・古生物、演劇、民俗などの部門に分かれ、ことに演劇部門はこの博物館ならではの特色のある部門で、「この部門だけでも、単独の演劇博物館ができるほどの充実したコレクションを所蔵している\*」ということだ。展示されていた可愛いマリオンネットがとても印象に残っている。中央階段を上ると、天井画の素晴らしい大広間にゆき当たる。隣室に通じるドアをそっと押すと、そこには、なんとおびただしい数の鉱石標本が並んでいることだろうか。ことに



宝石の原石には目を奪われてしまった。チェコが鉱物資源に恵まれた国だということをよく表わしているのだろう。他にはケプラー、メンデル、スメタナ、ドヴォルジャーク、カフカ等チェコ史上の偉人達を紹介した展示や、約100万冊の蔵書と8,000部の手写本を有する図書室もあるということだ。

博物館前のパーツラフ広場は何か事があるとすぐに市民の集まる場所とか、1968年のプラハ事件のときには、ソ連軍戦車の砲火を浴び、ファサードもだいぶ穴があげられてしまったということだったが、さすがにもうそんな面影はどこにもない。この石の建物はこの国の歴史を眺め続けるのにも最適な場所にあるということだろうか。(1985.8.19訪問)

\* 世界の博物館事典 鶴田総一郎編 講談社  
1979

(一般参考課 宮代信子)